

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月13日更新

事務事業名		熊本県都市統計協議会参画事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	政策部	課長名	中村 誓丞
	施策	24	行財政改革の推進			所属課	企画課	担当者名	宮本 拓摩
	基本事業	81	人材育成			所属班	政策企画班	(内線)	1254
予算科目		会計一般	款 2	項 5	目 1	事業連番 11057	法令根拠	熊本県都市統計協議会会則	
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 22年度で終了 <input type="checkbox"/> 22年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		
								成果優先度評価結果	: ⑫
								コスト削減優先度評価結果	: ⑥

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	熊本県都市統計協議会が実施する事務で、協議会に加入する県下13市が参加し各市統計担当職員の資質向上を図ることを目的としている。事務局は毎年加入市で持ち回り。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	年度始めに開催される熊本県都市統計協議会に参加し、都市部の統計調査に関する諸問題を協議する。
【主な予算費目】	なし。
【意見や要望】	特に聞いていない
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)	都市統計協議会への参画。本年度は国勢調査実施年であるため、それについての意見交換が主に行われた。	23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
		都市統計協議会への参画。平成23年度の幹事市は人吉市である。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 回	予算の主な増減の理由
→ ア 協議会回数	回	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	統計調査担当職員	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
		(単位) 人
		→ ア 統計調査担当職員数
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	統計調査担当職員が都市型の地域に共通する問題点等を把握し、その情報を交換することで統計調査員の資質を高める。	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
		(単位) 人
		→ ア 新たな知識を入手できた職員数
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠		
統計担当職員の資質向上を図るため。		

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込
① 活動指標	ア 回	回	1	1	1	1	1	1	1
② 対象指標	ア 人	人	1	1	1	1	1	1	1
③ 成果指標	ア 人	人	1	1	1	1	1	1	1
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		繰入金	千円						
		一般財源	千円						
	(A) 事業費計	千円	0	0	0	0	0	0	0
(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	
(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	
人件費	正規職員従事人数	人	2	3	1	2	1	1	1
	延べ業務時間	時間	12	58	8	10	8	8	8
	(B)人件費計	千円	48	230	31	41	32	32	32
トータルコスト(A)+(B)		千円	48	230	31	41	32	32	32

総トータルコスト
全体計画
~ 年度

(期間限定複数年度のみ記載)

0

事務事業名	熊本県都市統計協議会参画事業	所属部	政策部	所属課	企画課
-------	----------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部 (SEE)
 *原則は22年度の後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した 協議会に出席し、意見交換を行なうことで新しい情報等を入手できた。また、22年度は国勢調査を目前に各市の取り組みについて議論を深めたことにより、本市の実施体制を整えることに役立った。	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 ⇒
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 各市の担当それぞれが抱える問題点について議論を深めることができるほか、県の統計調査課より職員を招くため、市の意見を県に伝える良い機会となる。	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 ⇒
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 短時間の開催で、各市の統計担当職員が抱える問題点を積極的に議論し情報交換を行い、その後の調査においてもそのネットワークを活かすことができるため、現状を維持するものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 ⇒
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似の団体はない。	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 ⇒
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 事業費はないので削減余地はない。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ⇒
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 統計担当職員の都市統計協議会への参加時間のみであるので削減余地はない。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ⇒
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 市のみでなく、町村も会に加えるべきであるが、それには県の統計協会の方針転換が必要である。	<input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 ⇒
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 役割分担は適さない。	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 ⇒

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

これまでは、加入市で開催市を持ち回り2日間で実施されていたが、各市の意見を聞き、22年度から熊本市内の会場で1日で開催することに決まったため、開催市や統計担当職員の負担が軽くなった。協議会に参加することで、統計担当職員のネットワークが形成され、統計業務に十分に活かすことができ、さらに市でまとめて県に対し提案や要望などをもつこともでき、大変有意義であると考えている。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案) ・ ・ ・ 複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策																						